

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	脈、呼吸のある傷病者を、社会死と誤判断しそうになった事例
3. 体験した事例の中心的要素	訪ねた隣人が、居間で倒れ意識のない病者を発見し、付近住民に救急要請を依頼。「男性が自宅内で倒れており、呼吸していないようだ。」との通報内容や現場状況等から、社会死を疑ってしまい、搬送開始が遅延しそうになった事案。
4. 体験した事例の原因・理由	腹臥位で倒れていたため、隊員2名で仰臥位に体位変換する際、著しい冷感と上肢の筋硬直があり、死後硬直と誤認してしまったため。 わずかなびき様徐呼吸が聞こえたため観察した結果、脈・呼吸ありを確認し搬送に至る。

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成26年1月24日 午前10時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋内：アパート内の居室。暖房なし。当時の外気温 1.1℃
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	死亡していた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	その他：傷病者の搬送開始遅延
7. 事例体験時の活動	救急現場活動初期
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：傷病者接触時の初期観察中
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[27]歳、勤続年数[4]年、現場経験年数[4]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [ 頻繁 ]、任務 [ 隊員 ]
○当事者B	年齢[43]歳、勤続年数[25]年、現場経験年数[19]年、階級[消防司令補] 同様の活動 [ 頻繁 ]、任務 [ 車長 ]
○当事者C	年齢[26]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[1]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [ 1年に数度 ]、任務 [ 機関員 ]
○その他(当事者が4人以上の場合)	当事者D 年齢23歳 勤続2年 現場経験1年 階級消防士 同様の活動 過去に1~2回 任務 隊員

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	A・D	先行し病者と接触。初期観察を実施しようとしたが観察困難であったためAがDに体位変換を指示。	
経過2	A・D	病者を約90° ログロールしたところで、Aが病者の冷感と上肢の筋硬直を確認。その後、仰臥位にする。	
経過3	AがBに	冷感と上肢の筋硬直があり、社会死状態と誤認しBに「硬直(死後)有り」と伝えてしまった。	
経過4	B	Aに下肢の筋硬直の有無を確認するよう指示し、自ら顎硬直・ABCの観察をしようとしたところ、わずかないびき様呼吸を確認。	
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

通報内容や現場状況による先入観や思い込みがあった。
---------------------------

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について